

平成30年度 事業計画（案）

《事業展開方針》

国が2020年の訪日外国人旅行者数の目標4000万人を掲げる中、「訪日外国人旅行客の飛躍的増加」「成田空港の更なる機能強化実施に関する合意」「高速道路網の整備進展」など、成田空港及び千葉県を取り巻く環境が大きく変化しています。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピック開催を迎え、成田空港を利用する人流・物流がさらに拡大していく中、会員の新たなビジネス展開に資する連携・協働の事業や情報の提供に取り組み、より一層のプラットフォーム機能を発揮し、成田空港の成長と千葉県経済の活性化を図っていく。

○ 活用協議会の事業展開において目指すもの

- 今後の事業展開においては、以下の3項目の達成を目指す。
 - ・ 会員自身による事業・施策としての創出・自走化促進
 - ・ 「オール千葉」の力を発揮するための会員との連携・協働強化
 - ・ 過去5年間の成果の更なる拡大と事業テーマに沿った事業の推進
- 協議会の目指す上記3項目を達成するために、より一層のプラットフォーム機能を発揮し、事務局・会員間の連携の強化、会員相互の連携・協働体制の構築・強化を図り、会員が主体となる事業の創出・自走化を促進する。

○ 活用協議会の「事業の柱」と事業テーマ

- 活用協議会の目的をより端的に表した以下の2項目を「事業の柱」とし、目的を達成するために6つの事業テーマに沿って事業を進めていく。

【事業の柱1】 成田空港を活用した経済活性化

【事業の柱2】 成田空港を利用する人流・物流の拡大

(事業テーマ)

- ① 空港周辺・圏央道等への産業集積を促進する事業
- ② 成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業
- ③ 県・市町村が行う地方創生関連事業と連携・連動した事業
- ④ 東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする時機を捉えた事業
- ⑤ 県内大学等の教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を目指す事業
- ⑥ 過去5年間の成果を更に拡大していく事業

《事業内容》

(1) 6つの事業テーマ

① 空港周辺・圏央道等への産業集積を促進する事業

- 産業集積のために必要かつ実践的な情報・知見を広く共有することにより、成田空港や道路交通網の整備進展等を見据えたタイムリーな施策を講じることが可能な連携・協働体制を構築する。

[展開イメージ]

- ① 圏央道全線開通を見据えた企業誘致に向けた取組 等

② 成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業

- 成田空港の機能を活用した新しいビジネスの創出から成長に至るスキームを構築することにより、その経済効果が他のビジネスに波及し、かつ新たな起業を誘引する経済成長サイクルを確立する。

[展開イメージ]

- ① ※CHIBA ビジコンとの連携による新規事業創出の促進
- ② アジア経済圏におけるマーケティング
- ③ アクティビティ（体験型）商品開発 等

※CHIBA ビジコン（ちば起業家ビジネスプランコンペティション）とは
県内のニーズに対応した新たな発想・新たな手法による千葉発の起業を積極的に応援するためビジネスプランコンペティションを実施。県内での起業を前提とした内容で、千葉県の課題解決につながるビジネスアイデア・ビジネスプランを広く募集して選考、表彰、支援することで、経済の活性化を目指すものです。

③ 県・市町村が行う地方創生関連事業と連携・連動した事業

- 県・市町村の「地方創生」を目指す施策を、成田空港及び空港とつながる幹線道路や鉄道の活用という視点から、その他の会員及び関係団体等との連携・協働を促進又は支援することにより、県内の定住人口や交流人口の拡大に寄与する。

[展開イメージ]

- ① 日本遺産等を活用した誘客促進
- ② 空港の雇用拡大に伴う移住・定住の促進 等

④ 東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする時機を

捉えた事業

- 東京オリンピック・パラリンピック大会を契機として、成田空港を起点・終点とする人流の拡大に対応するため、受入体制の整備を促進することにより、大会の開催効果のより広域への波及と大会後における観光等での取組の恒常化に寄与する。

[展開イメージ]

- ① ユニバーサルツーリズムの促進
- ② 競技開催地とホストタウンや周辺地域が連携した情報発信・観光誘客等の促進 等

⑤ 県内大学等の教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を 目指す事業

- 県内教育機関と会員の連携・協働による効果的でシームレスな人材育成施策の展開を促進することにより、成田空港及び空港・航空関連産業における人材について、その確保と需給マッチングの向上による雇用機会の質的な拡大を実現する。

[展開イメージ]

- ① 将来的な人材育成を行うための調査・検討
- ② 教育機関と連携した学生を対象とした取組 等

⑥ 過去5年間の成果を更に拡大していく事業

- これまでの活動を通じて得た知見等を活用した会員提案と相互連携という手法により、成田空港の利便性と県内観光の魅力を国内外に効果的に情報発信していくことで、成田空港の利用拡大を推進する。

[展開イメージ]

- ① 県内観光情報・成田空港の魅力発信
- ② 千葉・北海道交流のフォロー 等

- 成田空港をより積極的に利用してもらえるよう、成田空港の豊富なネットワークやターミナル、アクセス利便性のPR・情報発信キャンペーンを、時機を捉えて効果的に展開していく。

[展開イメージ]

- ① 時機を捉えた空港利用促進PR 等

- 成田空港や千葉県を取り巻く現状や 県内経済の最新動向及び今後の見通しなどを会員間で共有するとともに、会員の事業展開に資するセミナー等を開催する。

[展開イメージ]

- ① インバウンド調査（県内の周遊動向）に関するセミナーの開催
- ② 会員のニーズや時流等を踏まえたセミナーの開催 等

(2) 基本的な取組

○ 要望活動

- ・ 成田空港の利便性向上のため、関連する団体と連携しながら、国等関係機関に対する要望を実施する。

○ 会員相互の情報共有

- ・ 協議会の活動を広報するため、各種媒体の積極的な利用やプレスリリースを展開するとともに、会員向けにメールニュース等による情報発信を行い、会員間において活動状況や成果の共有を図る。
- ・ 会員企業・団体の広報媒体の活用や、会員が主催するイベントへの協賛・後援等、会員による広報・プロモーションと連携・連動した取組について、会員のニーズを踏まえ検討・実施していく。

○ 事業の見直し（会員提案の検討・実施）

- ・ 協議会の事業展開の方向に沿った事業提案や幅広い意見・アイデア等について、引き続き募集し、事業化に向けて取り組んで行く。
- ・ 会員からの提案（意見・アイデア等）を協議会事業に反映させるため、情報・ノウハウを有する会員と積極的にコミュニケーションを図り、事業連携ができる会員同士を結び付けて事業を展開する。
- ・ 会員提案を踏まえて、事業計画の見直しを適宜行っていく。